

ヨシ刈跡地で耕起および不耕起栽培したスーダングラスの生育，収量および飼料成分
 ○加藤直樹・佐藤健次・原口暢朗・久保田哲史¹⁾・服部育男・鈴木知之・神谷充・
 神谷裕子・小荒井晃・渡邊泰夫²⁾・床次武富²⁾・岡本憲明²⁾・田代誠²⁾
 (九州沖縄農研¹⁾・北農研²⁾・九州農政局)

1. 目的

飼料生産を行う方法の一つとして，ヨシ刈跡などの未利用地を活用した粗飼料生産が考えられる。そこで本試験では，スーダングラスを用い，ヨシ刈跡を耕起して播種する試験区および，不耕起播種する試験区を設け，生育，収量および飼料成分等を調査したので報告する。

2. 材料および方法

本試験は2006年に長崎県諫早市のヨシ刈跡地において行った。供試品種には「ヘイスーダン」を用い，試験区は耕起後に播種する耕起区と，ヨシ刈跡に直接播種する不耕起区の2条件を設定した。試験区の面積は耕起区 3.5a，不耕起区 5.0a とし，3反復を設けた。播種は6月12日に行い，播種量は6kg/10a，条間30cmで条播した。施肥は基肥のみとし，緩効性肥料(LPコート100)を用いて窒素を5.5kg/10aを施用した。調査は生育途中に出芽数，草丈および茎数を調査し，収量調査を9月13日に行った。また，収量調査に利用したサンプルを用いて飼料成分分析を行った。

3. 結果および考察

出芽数は耕起区で603本，不耕起区では490本と不耕起区で少なくなった(表1)。不耕起区では刈取り残渣が表土を覆っており，出芽に影響したと考えられた。生育初期の草丈は耕起区と不耕起区はほぼ同じだったが，生育後期には耕起区の草丈が高くなる傾向にあった(図1)。なお，茎数は耕起区と比較し不耕起区の茎数が多い傾向にあった(図2)。収量は耕起区では1008kg/10a，不耕起区では853kg/10aと不耕起区で低かった(表1)。不耕起区ではヨシ等の旺盛な再生が見られ，スーダングラスの生育に影響し，収量が低下したと考えられた。また，飼料成分の分析を行ったところ，TDN含量はいずれも45%前後であった(表2)。また，Ca含量が低くグラステタニー症の目安となるK/(Ca+Mg)当量比が2.2を超えていた。以上の結果から，給与時には他飼料と組み合わせるなど配慮が必要であるが，ヨシ刈跡を活用したスーダングラスの生産・利用は可能と考えられる。

表1. 出芽数および収量

	出芽数 (本/m ²)	乾物収量 (kg/10a)
耕起区	603	1008
不耕起区	490	853
t検定	ns	ns

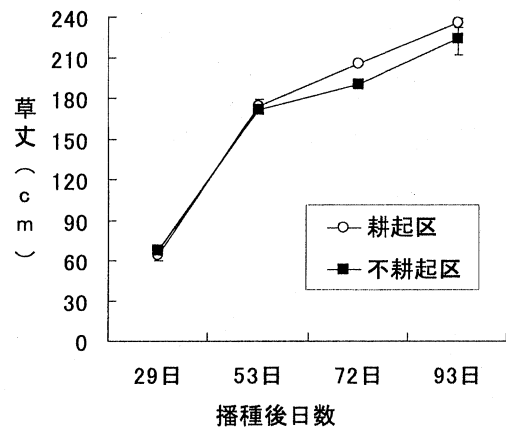


図1. 草丈の推移

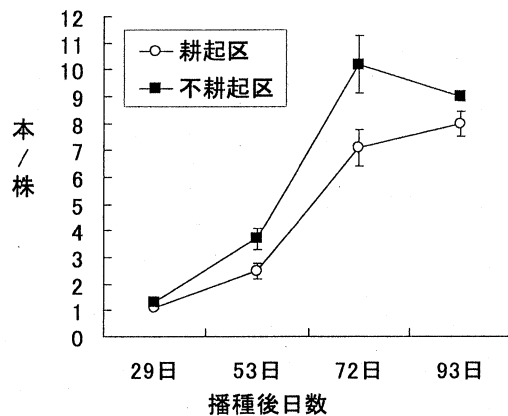


図2. 茎数の推移

表2. 飼料成分値(%)

	TDN*	Ca	Mg	K	K/(Ca+Mg) 当量比
耕起区	44.5	0.10	0.20	2.42	2.93
不耕起区	45.8	0.08	0.21	2.43	3.02

*酵素分析を行い，出口ら(1997)の推定式(TDN=-5.45+0.89x(OCC+Oa)+0.45xOCW)で算出した。

引用文献：出口ら(1997)日草誌43(別)290-291.